

2023 年度

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教職課程自己点検・評価

2023 年度教職課程自己点検について

大阪女学院大学・短期大学の教員養成センターでは、2022 年度より教職課程の自己点検を行い、今回で 2 回目となる。2022 年度に実施した自己点検の形を踏襲し、全私教の示す項目から 31 項目について前年度と同様に教員養成センターに所属する教職員 8 名（教員 6 名、職員 2 名）が回答した。評価は 4 段階（4: 充分できている、3: できている、2: 一部できている、1: ほとんどできていない、）で行い、各自の判断が難しい場合は「0: 無回答」としている。それぞれの項目について、本学の状況（できていること）と（課題）を記述式で回答するよう求め、それらの項目の記述をまとめる形で掲載している。

2 回目の自己点検実施ということもあり、初回と同じフォームを使用して行ったため、前回の結果との比較が容易となった。全体の傾向としては、回答の平均値は上昇している。これは教職員が自己点検の項目を意識し、1 年間業務に取り組んだ結果といえよう。1 ポイント以上上昇した項目は 6 項目あり、特に意識して取り組んだことが分かる。下降した項目については、引き続き次年度に向けての課題として共有したい。

2024 年度は自己点検 3 年目となることから、より具体的な対策について話し合うことが必要である。点検フォームの整備についても進めてゆきたい。

教員養成センター
英語教員委員会委員長
大塚朝美

連番	基準領域1～3	基準項目	➡全私教	全私教 観点	評価 合計	回答 数	平均	本学の状況（できている）	本学の状況（課題）
1	1教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協同的な取り組み	1-1 教職課程教育の目的・目標の共有	1-1-①	1-1-①課程教育の目的・目標を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。	23	7	3.3	HPや教職関連の説明会で周知を図っている。	HPについては本学が目指す教職課程や教師像について見やすい位置に掲載する必要がある。説明会等に来た学生向けにも分かりやすい形で示すことが必要である。
2	1教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協同的な取り組み	1-1 教職課程教育の目的・目標の共有	1-1-②	1-1-②育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。	24	7	3.4	定期的に教員養成委員会の会議を開き、目的および目標を確認している。	教職課程の手引書などを作成し、より具体的に図式化したり可視化する必要がある。
3	1教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協同的な取り組み	1-1 教職課程教育の目的・目標の共有	1-1-③	1-1-③ 教職課程教育を通して育もうとする学修成果(ラーニング・アウトカム)が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図っている。	22	7	3.1	教職課程規程により、教育実習の履修条件を設け、一定の学習成果を可視化できるようにしている。GPA 3.0 TOEIC 550点以上	教職科目担当教員に対してもコンセンサスを得ること、また早い段階から学生に対しても条件を周知する必要がある。
4	1教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協同的な取り組み	1-2 教職課程に関する組織的工夫	1-2-①	1-2-① 教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。	25	7	3.6	三者が連携し、定期的に会議を開き、情報共有を行っており、協力体制が整っている。	定例の会議を増やす、事務職員の数を増やすなどして協力体制に強化を図る必要がある。
5	1教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協同的な取り組み	1-2 教職課程に関する組織的工夫	1-2-②	1-2-② 教職課程の運営に関して全学組織(教職課程センター等)と学部(学科)の教職課程担当者として適切な役割分担を図っている。	29	8	3.6	小規模な組織であるため、教員養成センターと学部との連携がとれている。	教職科目以外の校務との兼ね合いも考慮し、分担を考える必要がある。
6	1教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協同的な取り組み	1-2 教職課程に関する組織的工夫	1-2-③	1-2-③ 教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、ICT教育環境の適切な利用に関しても可能となっている。	28	8	3.5	全館Wi-Fi環境が整えられ、全学生がタブレット端末を使用して授業を受け、発表なども行っており、ICT環境は整っている。またコンピュータルームも5室あり、1室は自習室として開放している。	最新技術や設備への組織的なアップデートが必要である。
7	1教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協同的な取り組み	1-2 教職課程に関する組織的工夫	1-2-④	1-2-④ 教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD(授業・カリキュラム改善、教育・学生支援体制の整備等)やSD(教職員の能力開発)の取り組みを展開している。	22	8	2.8	授業評価アンケートを通して授業・カリキュラムの改善を行っている。	SDの機会はあるがより定期的に行うことで教職員の能力開発を行っていきたい。
8	1教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協同的な取り組み	1-2 教職課程に関する組織的工夫	1-2-⑤	1-2-⑤ 教員養成の状況についての情報公表を行っている。	25	7	3.6	年度途中および年度末に発行している印刷物、機関誌、大学のホームページなどで公開している。	大学のHP更新を定期的に行うべきである。
9	1教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協同的な取り組み	1-2 教職課程に関する組織的工夫	1-2-⑥	1-2-⑥全学組織(教職課程センター等)と学部(学科)教職課程が連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能しているか、この自己点検評価を通じて機能しつつある。	19	6	3.2	教職課程の自己点検評価で改善を行っている。	協同的な取り組みという点で、組織的に改善を図っていかなければならない。
10	2.学生の確保・育成・キャリア	2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成	2-1-①	2-1-① 当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受入れの方針」等を踏まえて、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施している。	26	8	3.3	オープンキャンパスでの教職課程の説明会やパンフレットの教職課程のページを通して、教師にふさわしい人材の確保・育成に向けて努力している。	教職の魅力を卒業生の活躍の様子などを通して、より具体的に示していく必要がある。

連番	基準領域1～3	基準項目	➡全私教	全私教 観点	評価 合計	回答 数	平均	本学の状況（できている）	本学の状況（課題）
11	2.学生の確保・育成・キャリア	2-1 教職を担うべき適切な人材 (学生)の確保・育成	2-1-②	2-1-② 「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定している。	27	8	3.4	教職課程の説明会や教職勉強会の機会に、教職を担うべき学生像を示している。TOEICのスコアにより教職課程の履修に制限をかけている。	TOEICスコアやGPA以外の要素についても検討していく必要がある。
12	2.学生の確保・育成・キャリア	2-1 教職を担うべき適切な人材 (学生)の確保・育成	2-1-③	2-1-③ 「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れている。	29	8	3.6	適切な規模の履修学生を受け入れている。	履修学生が少ない年度があるので、早い段階で教職の魅力を理解させる必要がある。
13	2.学生の確保・育成・キャリア	2-1 教職を担うべき適切な人材 (学生)の確保・育成	2-1-④	2-1-④ 「履修カルテ」を活用する等、学生の適性や資質に応じた教職指導が行われている。	20	8	2.5	「履修カルテ」を活用して学生の適性や資質に応じた教職指導は行われている。	「履修カルテ」の活用に関して、さらなる検討と取り組みが必要である。
14	2.学生の確保・育成・キャリア	2-2 教職へのキャリア支援	2-2-①	2-2-① 学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。	23	7	3.3	少人数教育を行っており、各授業において各学生の教職に就こうとする意欲の変化や適性を把握している。	履修生の中には、学びの途中で意欲を失う学生もいるのできめ細やかなサポートが必要である。
15	2.学生の確保・育成・キャリア	2-2 教職へのキャリア支援	2-2-②	2-2-② 学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。	25	7	3.6	キャリアサポートセンターと連携して学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を行っている。	キャリアサポートセンターとの連携しつつ組織的にキャリア支援を行う必要である。
16	2.学生の確保・育成・キャリア	2-2 教職へのキャリア支援	2-2-③	2-2-③ 教職に就くための各種情報を適切に提供している。	24	7	3.4	Google classroomなどを利用して履修学生に各種情報を提供している。	キャリアサポートセンターにもたらされる情報について迅速な共有化が必要でもある。
17	2.学生の確保・育成・キャリア	2-2 教職へのキャリア支援	2-2-④	2-2-④ 教員免許状取得件数 教員就職率を高める工夫をしている。	25	8	3.1	教職キャリアサポート演習等を実施し免許状取得・教員就職率を高めている。	入学前に教職課程を履修し教員免許が取得できることを周知する必要がある。
18	2.学生の確保・育成・キャリア	2-2 教職へのキャリア支援	2-2-⑤	2-2-⑤ キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。	27	8	3.4	高校生対象のオープンキャンパス時における教職課程の説明会に現任教員の卒業生に来学頂に現任教員の卒業生に来学頂き、教職課程履修学生も参加している。	卒業生の教職ネットワークを構築中であるが、更に加速する必要がある。
19	3教職課程カリキュラムの編成・実施	3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施	3-1-①	3-1-① 教職課程科目に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行っている。	22	7	3.1	英語の科目以外も英語で実施するなど、英語教育を通じて世界で活躍する女性を育成する教育課程を構築している。	建学の精神の具現化はなかなか難しい。具体的にどのように具現化するかを考える必要がある。
20	3教職課程カリキュラムの編成・実施	3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施	3-1-②	3-1-② 学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。	26	7	3.7	英語の教員に必要不可欠な4要素を教職課程履修者も選択できるようコアカリキュラムに対応している。	より具体的に把握すべきである。

連番	基準領域1～3	基準項目	➡全私教	全私教 観点	評価 合計	回答 数	平均	本学の状況（できている）	本学の状況（課題）
21	3教職課程カリ キュラムの編 成・実施	3-1 教職課程カリ キュラムの編成・ 実施	3-1-③	3-1-③ 教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、 教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する 内容上の工夫がなされている。	23	7	3.3	適切な規模の履修学生を受け入 れ、内容的にも今日の学校教育 に必要な資質能力を育成する内 容となっている。	求める教師像を講義等で明確に し、長時間労働等の現場の課題 も踏まえながら、教育内容を更 に充実させる必要がある。
22	3教職課程カリ キュラムの編 成・実施	3-1 教職課程カリ キュラムの編成・ 実施	3-1-④	3-1-④ 今日の学校におけるICT機器を活用し、情報活 用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、 情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切 な指導が行われている。	29	8	3.6	英語科教育方や事前及び事後の 指導などの授業でICTを活用し た模擬授業を行う機会を与えて いる。	現在、ICTは日々進歩している ので、教職員間でも常に最新の ICT機器の活用、勉強会に参加 し、情報を共有するべきであ る。
23	3教職課程カリ キュラムの編 成・実施	3-1 教職課程カリ キュラムの編成・ 実施	3-1-⑤	3-1-⑤ アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で 深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題 発見や課題解決等の力量を育成している。	28	7	4	一方的な講義に偏らず、話し合 い、プレゼンテーション、ロー ルプレイなどを通して課題発見 や問題解決などの力量を育成す る授業展開がされている。	アクティブラーニングについて の理論と技法の研修をさらに継 続する必要がある。
24	3教職課程カリ キュラムの編 成・実施	3-1 教職課程カリ キュラムの編成・ 実施	3-1-⑥	3-1-⑥ 教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容 や評価方法等を学生に明確に示している。	31	8	3.9	ウェブ上やGoogle Classrron でシラバスを公開している。ま た、最初のクラスでもさらに詳 細なシラバスを配布して、学修 内容、評価方法を明確に伝えて いる。	評価方法は明確に示している が、いくつかの教科で行なわれ ている模擬授業を同一基準で評 価するためのルーブリックを作 成する必要がある。
25	3教職課程カリ キュラムの編 成・実施	3-1 教職課程カリ キュラムの編成・ 実施	3-1-⑦	3-1-⑦ 教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、 教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。	31	7	4.4	TOEICやGPAの基準を設けて いる。また、実習前の事前指導 で教育実習生としての心構えと 態度、SNSに関する指導を行 なっており、希望者には面談も 行なっている。	引き続ききめ細かい指導をおこ なっていく必要がある。
26	3教職課程カリ キュラムの編 成・実施	3-1 教職課程カリ キュラムの編成・ 実施	3-1-⑧	3-1-⑧ 「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に 応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」 の指導にこの蓄積を活かしている。	16	7	2.3	教職課程の各科目で学んだこと について履修カルテに記入する ように指導し、卒業前にカルテ を回収し、大学で保管してい る。	カルテの記入は行われている が、それを組織的に活用し、振 り返りなどに活かすことができ ていない。
27	3教職課程カリ キュラムの編 成・実施	3-2 実践的指導力 育成と地域との連 携	3-2-①	3-2-① 取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導 力を育成する機会を設定している。	30	8	3.8	教育実習に向けて模擬授業等の 実践的な指導の機会を提供して いる。	教育実習前後の教職実践演習で は、現職の英語教員を招き、実践 的な事例紹介等を行っている。今 後、OG教員の講演会などが望まし い。
28	3教職課程カリ キュラムの編 成・実施	3-2 実践的指導力 育成と地域との連 携	3-2-②	3-2-② 様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、 インターンシップ等）とその振り返りの機会を設けてい る。	25	7	3.6	介護等体験、教育インターン シップという様々な体験活動の 後に振り返りを適切に行ってい る。	介護等体験、教育インターン シップに関する教職員間の情報 交換が一層求められる。
29	3教職課程カリ キュラムの編 成・実施	3-2 実践的指導力 育成と地域との連 携	3-2-③	3-2-③ 地域の子どもの実態や学校における教育実践の 最新の事情について学生が理解する機会を設けている。	24	8	3.0	地域の小学校へのインターン シップが行われている。	教職履修生の地元の教職ボラン ティアやインターンシップへの 積極的な参加が必要である。
30	3教職課程カリ キュラムの編 成・実施	3-2 実践的指導力 育成と地域との連 携	3-2-④	3-2-④ 大学ないし教職課程センター等と教育委員会等 との組織的な連携協力体制の構築を図っている。	16	7	2.3	各市町村教育委員会との個別の 連携は実施されているが、まだ 本学教職課程との密接な関係は 構築されていない。	教育委員会からの教職課程に関 する最新の情報収集が不可欠で ある。

連番	基準領域1～3	基準項目	➡全私教	全私教 観点	評価 合計	回答 数	平均	本学の状況（できている）	本学の状況（課題）
31	3教職課程カリ キュラムの編 成・実施	3-2 実践的指導力 育成と地域との連 携	3-2-⑤	3-2-⑤ 教職課程センター等と教育実習協力校とが教育 実習の充実を図るために連携を図っている。	23	8	2.9	履修生の実習中に教職員が授業 見学へと来校している。	これまでも履修生の実習期間中 に来校しているが、可能であれ ば、研究授業を見学することが 課題である。